

つくば月額3万円、土浦月額1万5千円・・・広がる地域格差 保育士等への助成請願、本採択ならず



かすみがうら市議会議員みやじま謙活動報告

つばさ通信

第20号

3月3日から開催された令和2年第1回定例会に、保育士などへの公的助成を求める請願が、3千名を超える署名とともに提出されました。

他県はもとより、つくばや土浦、牛久、阿見など近隣自治体においても、すでに保育士助成制度が実施されており、相対的にかすみがうら市での保育士確保が非常に難しくなっていることが背景にあります。

私は保育士への助成が市内の保育環境を向上させることにつながると考え、請願の本採択を目指しましたが、市による公的助成はすべきでないと考える議員が多数を占め「趣旨採択」となっていました。

3158人請願者落胆

各地で広がる保育士助成

「保育園落ちた日本死ね」というブログがマスコミを騒がせたのが2016年。あれから4年が経過しますが、待機児童問題は今も続いています。

待機児童問題の最大の理由は保育士不足です。特に0〜2歳児は保育士1人で担当できる子どもの人数が3〜6人と配置基準で定められていることから、人手不足は深刻です。そうしたことから、給与や家賃などの助成事業をはじめる自治体が増えています。千葉県では保育士に月2万円、船橋市では月4万2330円・賞与7万5060円、松戸市では月4万5000〜7万8000円・家賃補助月3万円。県内の近隣自治体でも、つくば市3万円、牛久市1万5000円、土浦市1万5000円、阿見町1万5000円（いずれも月額）など、自治体挙げて処遇改善策に取り組んでいるのが実情なのです。

採用難の市内事業所

しかしかすみがうら市では、こうした助成制度はありません。そのため採用面で非常に不利な状況にあります。

今回の請願の代表者塚本陽子さんによれば、「つくば市や土浦市に比べてかすみがうら市への就職を希望する人は非常に少なく、内定を出しても条件の良い他市の事業所へ行かれてしまうことも少なくない」というのです。かすみがうら市では現在、待機児童は0人とされています。しかし実際は、遠くの保育園しか空きがないなど、何らかの事情で預けることを断念している、いわゆる隠れ待機児童がいることも確かです。さらに、かすみがうら市で助成制度が始まることによって、優秀な保育士の確保が促進されれば、保育の質が高まることも期待されます。

なぜ議会が門前払い？

以上のような理由から私は、この請願が本採択され、一日も早く近隣自治体に負けない保育環境を整えるべきだと訴えました。

しかし同様の考えの議員は、私のほか矢口龍人、佐藤文雄、設楽健夫各議員の3名にとどまり、議長を除く他の議員は全員、行政による保育士助成には反対で、結果「趣旨採択」となっていました。

趣旨採択とは「願意は理解できるが財政上実現が困難な場合」にとる便宜的な方法であって、今回の請願は具体的な金額要求ではないため財政上の問題は無く、趣旨採択の要件から外れています。ではなぜ趣旨採択になったのか。時に議員が、趣旨採択を反対の隠れミノとして都合よく利用することがあるのです。3000名を超える請願者の思いを、市民の代表たる議会が門前払いをする結果となり、残念でなりません。

フードバンク活動にご協力をお願いします！

フードバンクとは、賞味期限内で安全に食べられるにも関わらず包装ミスや返品などで廃棄される食品や、ご家庭で余っている食品を集め、困っている人へ無償で届ける活動です。だれでもできる「食の助け合い」にぜひご協力ください。

【寄付していただきたい食品】

2か月以上の賞味期限があり、常温保存できる未開封の食品（缶詰、レトルト食品、乾麺、インスタント食品、白米、お菓子など）
※もちろん新規購入品も大歓迎です。

【受付場所】

霞ヶ浦地区：あじさい館入口
千代田地区：千代田ショッピングモール農協そば前
※いずれも営業時間内



みやじま謙はNPO法人フードバンク茨城の会員です

デマンド型乗合タクシー「来年3月廃止」を再検討へ 市長「存続も選択肢」と明言

執行部は真摯に市民の声に耳を傾けるべき

迷走する交通行政

来年3月での廃止方針が出されているデマンド型乗合タクシーについて、継続と改善を求め一般質問しました。

2年3月での打ち切りを決定。その後、市民からの猛反発を受け、廃止を1年延期した経緯があります。

存続も選択肢と発言

今回の一般質問でも交通弱者が増えることからこそ乗合タクシーが必要であり、工夫次第で収支率の改善も可能であると指摘し、廃止方針の撤回を強く迫りました。

乗合タクシーは平成22年にスタートし、年間利用者数が1万4000人にまで増えたものの、平成27年度から運行方法を改悪したため、予約が取れないなどの苦情が急増して低迷。今では年間8000人程度まで落ち込んでいます。それを理由に市は平成30年、令和

この話と並行して千代田神立ラインという新しいバス路線が昨年10月に開業しましたが、1日の平均乗車数が21人と、ほとんど利用されていない状況です。行政自らが制度を改悪しておきながら利用低迷を理由に乗合タクシーを廃止とする一方、ほとんど利用されないバス運行を始めるなど、市の交通行政は迷走を

その結果坪井市長は、「デマンド（乗合タクシー）も選択肢の一つとして検討する」と、これまでの方針を撤回しました。市民の声に基づいた本気の取り組みが期待されます。

「え？職員の名刺は自腹？」

市職員が業務で使用する名刺や作業服が、実は職員の自己負担であることがわかりました。

このことを一般質問したところ、名刺については「公務員は個人をPRする必要はないという考えの自治体も多い」と、民間の常識と大きくかけ離れた考え方が紹介されました。ちなみに県や国は公費を支出しています。

作業服については、市には被服等貸与規程があり、その貸与方法が定められているのですが、これに関しては、「貸与する場合は規定であって、貸与は義務ではない」との答弁でした。

これら物品を個人負担させるといふことは、使用するかしないか、買うか買わないかは「職員個人の自由」ということになります。しかし業務上は必要ですから、職員は暗黙のうちに自腹を切らされ続けているのです。

業務遂行上必要なものは公費負担が原則です。職員に負担を押し付ける悪習は、直ちに改めるべきだと思います。

明日への思い

交通弱者の大切な足となる乗合タクシーを廃止しようとする。保育士を助成して保育環境を良くする請願は議会が本採択を拒絶。子どもの大切な遊び場である公園は廃止。

その一方で、必要性の低いウェルネスプラザに6億円も投じる。ほとんど利用者がいない千代田神立ラインバスを走らせる。再生可能エネルギーの活用を促進すべき時に太陽光発電施設への助成を打ち切る。・かすみがうら市はまるで、市民不在の暴走列車のようです。

私は市民の皆さんに聞きたい。「このまちは住み良くなっていますか？」

「愛する子や孫が他所で暮らしたい言ったとき、引き止めますか？」と。首長や議員選びで、まちは良くも悪くなることを思い知らされる昨今です。

TOPICS

暮らしやすさに逆行する公園廃止条例

今定例会に、市内15か所ある農村公園を廃止する条例が出され、賛成多数で可決されました。もちろん私は反対です。

（他、矢口、佐藤、設楽各議員が反対）
農村公園は合併以前の霞ヶ浦地区で、地域の交流と子どもたちの健全育成を目的に設置されたものです。管理は地域に委嘱され、地域コミュニティの活性化に役立つてきた経緯があります。

遊具の老朽化や地域の少子高齢化にもなつて、いくつかの公園では管理が行き届きなくなり、雑草が繁茂する空き地と化した所もあり、個別に存廃を検討する必要があります。確かにあります。

しかし一方で、まだ利用されている公園も少なくなく、代替え措置もないままに農村公園すべてを無くしてしまうことは、地域の交流拠点を奪い、若い子育て世代を追い払うことにもつながります。ただでさえ公園面積が少ないかすみがうら市です。暮らしやすさに逆行する政策をなぜ行うのか、理解に苦しみます。



公園の少ないまちに住みたいですか？

千代田と出島は鳥の両翼 心合わせて羽ばたこう！



みやじま謙の「創ろう！かすみがうら市新時代」 ブログ大好評配信中！